

アウトプットと負のフィードバックの「焦点標識」習得に及ぼす効果について The Impact of Output and Negative Feedback in Learning Focus Marking in JFL

田中順子 (トロント大学大学院)

Junko Tanaka

University of Toronto, Graduate School

[KEY WORDS: SLA, Semantics/Pragmatics, Output, Negative Feedback, JFL]

0 研究の背景

アウトプットすることは、第二言語習得において正確さ(accuracy)の習得に役立つと言われている(Swain, 1995)。しかし、アウトプットが実際に目標言語項目の習得にどのような効果を与えるのかについて量的に検証した例は未だ多くない。負のフィードバックの効果については数々の先行研究が行われており、目標言語項目の学習に少なくとも短期的には効果があることが知られている。しかし、それらの先行研究における目標言語項目は統語面に限られ、且つその学習のために学習者が考慮しなければならない言語ドメインも単文レベルのものがほとんどである。

本研究では先行研究とは異なり、目標言語項目を統語的側面のみならず意味論・語用論的側面にも関係した「焦点標識」構造とした。また、「焦点標識」を含んだ正しい文を表出するために考慮しなければならない言語ドメインも単文レベル以上である。具体的には、日本語のIdentificational Sentence中における指定の「が」を本研究の目標言語項目として取り上げた。また、「迷わし手」(distracter)として題目文(Topic-Comment sentence)を使用した。

1 研究の目的

本研究の目的は負のフィードバックとアウトプットが、意味論・語用論の両面に関係する日本語の焦点標識「が」の習得にどのような効果を及ぼすかについて量的に研究することである。

2 研究方法

被験者は北アメリカの大学で中級の下～中級レベルの日本語(JFL)の授業を受講中、あるいは受講終了した学生48人である。被験者のL1は英語22名、北京語5名、広東語20名、インドネシア語1名である。被験者はプリテストの結果によって負のフィードバックとアウトプットを受ける群(MO)、負のフィードバックだけの群(M)、アウトプットだけの群(O)、何の介入も受けない統制群(C)の4グループに振り分けられた。

実験は、教示、練習、介入、テストのすべてを、発表者が作成したコンピュータープログラムを使ってラップトップコンピューター上で行った。焦点標識を正しく選択するためにはコンテキスト情報の中から何が焦点になるべきかを判断する必要があるのだが、そのために必要なコンテキスト情報はコンピューターのスクリーン上に漫画の形態で標示された。被験者に与えられたフィードバックは上段言語的なフィードバックであった。

介入は介入対象群に対し第1回目により行われた。介入に引き続きテストが同日に実施された。第2回のテストは第1回目の2～3日後に、第3回目は第2回目から約2週間後に行われた。介入の対象になった設問は35問、テストの項目は17問である。

9月6日(土) 研究発表第6室(16号館307)

4 結果

介入の行われたアイテム35問と介入なしのテスト用のみのアイテム17問から成る、第1回から第3回までの繰り返し測定したデータについて、分散分析(repeated measures ANOVA)を行った。負のフィードバックは介入が行われたアイテムとテストだけのアイテムにおいて非常に大きな有意差が現れた。アウトプットは介入の行われたアイテムにおいては有意差がみられたが、介入をしなかったアイテムにおいては有意差が現れなかった。フィードバック、アウトプットともに「迷わし手」に関しては有意差がみられなかった。

5 結論

Identificational Sentenceにおける焦点標識を表す「が」をJFL学習者が習得する場合のように、有標で、かつ構造が複雑なために自分自身でその構造を発見するのが困難な項目については、負のフィードバックはその項目の習得に効果があると考えられる。逆に「迷わし手」の題目文のように無標である項目の学習においては、負のフィードバックはその効果をもたないと言えよう。また、アウトプットをすることは負のフィードバックの効果を補強する効果があると言えるであろう。

参考文献

- Caroll, S. & Swain, M. (1993). Explicit and implicit negative feedback. Studies in Second Language Acquisition, 15(3), 357-386.
- Caroll, S., Swain, M., & Roberge, Y. (1992). The role of feedback in adult second language acquisition: Error correction and morphological generalization. Applied Psycholinguistics, 13(2), 173-198.
- Swain, M. (1995). Three functions of output in second language learning. In G. Cook & B. Scidlhofer (Eds.), Principle and practice in Applied Linguistics. Studies in honour of H.G. Widdowson. Oxford: Oxford University Press.

Language Items

1. Target language item: Copular identificational sentences in Japanese, NP1 GA NP2 copula.

a. Argument-focus sentence.

NP1 GA NP2 copula

To a (presupposed) question, 'Who is the manager here?'

watasi	ga	tentyoo	desu
I	SUB	manager	COP

FOC			

'I'm the manager.'

b. "Inverted" argument focus structure in which focus falls on the syntactic predicate.

NP2 WA NP1 copula

To a (presupposed) question, 'Who is the manager here?'

tentyoo	wa	watasi	desu
manager	TOP	I	COP

		FOC	

Lit. 'The manager is I.'

2. Distractor item: Copular topic-comment sentences in Japanese, which is of **non-identificational** type.

c. Predicate-focus sentence.

NP1 WA NP2 copula

To a presupposed question, 'What is Tokyo like?'

Tokyo	wa	daitosi	da
	TOP	big city	COP

		FOC	

'Tokyo is a big city.'